長洲町立長洲小学校　校長便り　No.1

みんなの居場所

頭の体操コーナー

裏に頭の体操クイズを載せています。小学校で学習することをベースに作っています。出来る出来ない関係なく、ご家族でチャレンジしてみてください。会話が広がります。

令和4年4月22日(金)

ご挨拶

校長の澤田　敦（さわだあつし）でございます。どうぞよろしくお願い致します。4月に本校に着任し、子ども達や保護者の皆様にお声掛け頂き、嬉しく思いますが、ご存じの通りコロナ禍の影響で子ども達や保護者の皆様とお話しする機会が少なく、淋しく思っています。

さて、私も保護者の一人として皆様とご一緒に色々な事に向き合っていく覚悟です。また、学校では「校長先生ってどぎゃん人?」とか「校長先生はいつも何ばしよんなはっと?」という会話を耳にすることがあります。それに答えるために、このお便りでは私自身のことを綴っていきたいと考えています。また、これからの社会が変化していくに伴い、新しい情報の提供や皆さんで考えて頂きたいことについても、発信していくことができれば良いなと考えています。どうぞ、ご笑読くださいませ。

「みんなの居場所」というタイトルは、長洲小学校が子ども達にとって、保護者の皆様にとって、我々教師にとって、地域の方々にとっての安心できる「居場所」となることを願って付けました。それぞれが互いのことを想い、居場所づくりのために何が出来るかを考えていくことが大切だと思います。私も微力ながら頑張って参ります。感想をお聞かせいただければ幸いです。（下欄）

新年度にあたり、少々生意気かとも思いましたが、私自身の戒めのためにも、ある社会活動家の言葉を紹介します。

「おかげさまで」

夏が来ると冬がいいという　冬になると夏がいいという
太ると痩せたいという　痩せると太りたいという
忙しいと閑になりたいという　閑になると忙しい方がいいという
自分に都合のいい人は善い人だと誉め
自分に都合が悪くなると悪い人だと貶す
借りた傘も雨があがれば邪魔になる
金をもてば古びた女房が邪魔になる
世帯を持てば親さえも邪魔になる
衣食住は昔に比べりゃ天国だが　上を見て不平不満に明け暮れ
隣を見ては愚痴ばかり　どうして自分を見つめないか
静かに考えてみるがいい　いったい自分とは何なのか
親のお陰　先生のお陰　世間様のお陰の塊が自分ではないのか
つまらぬ　自我妄執を捨てて　得手勝手を慎んだら
世の中きっと明るくなるだろう
おれがおれがを捨てて　おかげさまでおかげさまでと暮らしたい

先に述べました通り、自戒の意味で毎年の始めにこの言葉を噛み締めています。自分に降りかかるすべてのことは、自分を成長させてくれる大切なことばかりです。それに対して不平不満ばかりでは成長は望めません。また、自己中心的な考え方も同様です。私は自分を振り返り、何かしら思い当たることが多く、恥ずかしいばかりです。併せて、一保護者として、自分の子どもに対する考え方はどうかと問うてみました。「あまりに過保護すぎないか」「担任の先生と連携しているか」「子どもの躾に関して是々非々が貫かれているか」…。私も教師の一人ですから、「先生方の指導の真意を汲み取っているか」ということも考えました。私が子どもの頃の両親の躾は非常に厳しいものでした。「あいさつ」「食べ物の好き嫌い」「うそ」「お金のトラブル」「人に迷惑をかける」等については特に厳しく、これらのことについて学校から連絡があると母は徹底的に私を叱り、「息子がご迷惑をおかけしました。」と学校に連絡をしていました。今では母に対して「おかげさま」でという感謝の気持ちでいっぱいです。

シリーズ「自分を語る」#①

管理職になり「澤田先生ってどんな人?」って質問をよく聞きます。私のことを知って頂きたくシリーズ「自分を語る」無理やりスタートです。ご笑読くださいませ。

早速第1回をお送りします。（0歳～5歳頃：正直なところあまり覚えていません。）

私は昭和41年に生まれました。私の母は死産と流産の経験があり、私の誕生は待望のことだったようです。父は益城町、母は西原村の出身で、どちらも実家は農家でした（熊本地震の時は片付けが大変でした）。どちらも働き者で、私が小学校の頃は、当然のように鍵っ子生活を送ることになりました。待望の子ということで相当可愛がってくれたようですが、愛情も強い反面、厳しさも半端じゃなかったです。

父は自動車の運転をしません。自転車、バイクが主な移動手段でした。幼稚園に入る前から、父の自転車で遊びに連れて行ってもらっていました。私が幼少期を過ごした場所は、熊本市にある新地団地です。それが長屋だった頃、父は自転車であちこち連れて行ってくれました。また、徒歩も多かったようです。歩いて熊本市内に行ったり、立田山に徒歩で登ったりしていました。その他に思い出すことは、竹馬、ゴム銃、ばったり（鳥を捕まえるための仕掛け）など、アウトドアの遊び道具をよく作ってくれました。他には、凧揚げ、川釣り、沢がに捕り、筍掘り等々、ワイルドなところでは、家族のお祝いやお客さんがいらっしゃった時に、庭から鶏を捕まえてきて、美味しく頂くための作業を一緒にしたこともあります。こういった経験は、子ども心に「楽しかったなぁ、また明日遊ぼう!」とか「生き物の命を頂くんだ。」って、素直に思えました。今の時代は万物の有り難さを忘れているような気がします。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）